

平成24年度入学者のための

筑波大学大学院博士課程
人間総合科学研究科学生募集要項

博士前期課程（一般入学試験 2月期）

平成23年11月
筑波大学

募 集 人 員

〔2月期および第2次募集〕

博士前期課程

専 攻	募集人員	備 考
教育学	9名	第2次募集 外国人留学生若干名含む
心理	若干名	第2次募集
感性認知脳科学	若干名	第2次募集 連携の募集を含む。
世界遺産	若干名	第2次募集

1. 出願資格

- (1) 学校教育法第83条に規定する大学を卒業した者及び平成24年(2012年)3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び平成24年(2012年)3月までに学士の学位を授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び平成24年(2012年)3月修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成24年(2012年)3月修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成24年(2012年)3月までに修了見込みの者
- (6) 学校教育法施行規則第155条第1項第5号の規定により、文部科学大臣が別に指定する専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)を文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成24年(2012年)3月修了見込みの者
- (7) 文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号:旧大学令による大学又は各省庁設置法・組織令、独立行政法人個別法による大学校を卒業した者等)
- (8) 本学の大学院において行う個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達したもの及び平成24年(2012年)3月までに22歳に達するもの((注1)及び(注2)参照)
- (9) 平成24年(2012年)3月末日で大学に3年以上在学した者であって、本学の大学院が、本学の大学院の定める所定の単位を優秀な成績で修得したと認めたもの((注1)参照)
- (10) 平成24年(2012年)3月末日で外国において学校教育における15年の課程を修了し、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了し、又は我が国において外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者であって、本学の大学院が、本学の大学院の定める所定の単位を優秀な成績で修得したと認めたもの((注1)参照)
- (11) 学校教育法施行規則第155条第1項第7号の規定により大学院に入学した者であって、当該者をその後に入學させる本学の大学院において、教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの((注1)参照)

(注1) 出願資格(8)~(11)で出願しようとする者については、出願資格認定審査を行いますので、あらかじめ教育推進部教育推進課(11. 問い合わせ先)へ申し出て、次の書類を平成23年(2011年)12月15日(木)までに教育推進部教育推進課あて提出してください。

なお、出願書類は出願資格認定審査が終了するまでその受理を保留します。

① 出願資格(8)~(11)で出願しようとする者

(ア) 出願者調書……………指定様式

(イ) 通常の出願書類(但し、検定料は出願資格認定審査結果が出るまでは払い込まないでください。)

(ウ) その他研究科が必要と認める書類

② 出願資格(8)で出願しようとする者のうち、原則として、外国人出願者で、大学教育修了までの学校教育の課程が16年に満たない国において大学教育を修了した者で、次の(a)に該当し、かつ、本学大学院において、(1)の大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(a) 大学教育修了後、国内若しくは国外の大学又は大学共同利用機関等これに準ずる研究機関において研究生、研究員等として相当期間(おおむね1年以上とする。)研究に従事した者及び平成24年(2012年)3月までに従事することとなる見込みの者

(ア) 通常の出願書類(但し、検定料は出願資格認定審査結果が出るまでは払い込まないでください。)

(注2) 出願資格(8)に該当する者とは、短大・高専・専修学校・各種学校の卒業者、外国大学日本校、外国人学校その他の教育施設の修了者(見込みを含む。)で、個人の能力の個別審査により、本学大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者等です。

出願資格について疑問がある場合は、あらかじめ教育推進部教育推進課 [Tel.029(853)2230・2231] に照会してください。

※ 障害のある者で、受験の際に特別な配慮を必要とする者は、平成23年(2011年)12月15日(木)までに教育推進部教育推進課へ申し出てください。

2. 出願書類等

出願書類により取得した個人情報及び試験成績の個人情報については、入学者選抜に関する業務に利用します。また、入学手続完了者のうち授業料免除申請者及び日本学生支援機構奨学金申請者に限っては選考の際の審査資料の一部に利用します。

書類等	提出該当者	摘要
1 入学願書	全員	所要事項を記入（入学願書等記入上の注意を参照）し提出してください。
2 履歴書	全員 (外国人出願者を除く。)	入学願書裏面に所要事項を記入してください。
3 外国人出願者用履歴書	外国人出願者全員	本学所定の用紙に所要事項を記入し提出してください。
4 職歴調書	職歴のある者全員	本学所定の用紙に所要事項を記入し提出してください。
5 受験票・写真票	全員	所要事項を記入し、写真（出願前3か月以内に撮影した無帽上半身正面のもので、大きさは縦4cm×横3cm、同一の写真を使用）を貼って提出してください。 上記要件に合わない場合には、受理しません。
6 机上受験票	全員	所要事項を記入し提出してください。
7 検定料 (30,000円)	全員 (国費外国人留学生を除く。)	所定の金融機関等からの払い込みとなります。外国在住の者は、クレジットカード(VISA、MasterCard、JCB、AMERICAN EXPRESS)により払い込むことができます。詳細は、本学ホームページをご覧ください。 http://www.tsukuba.ac.jp/admission/graduate/information.html ① 払込期間 平成23年(2011年)12月1日(木)から、出願期間に間に合うよう払い込みください。 ② 払込場所 ア 郵便局、銀行、信用金庫、農協(JA)などの金融機関受付窓口 (ATM(現金自動預け払い機)から払い込みすることはできません。必ず金融機関の受付窓口から払い込んでください。) イ コンビニエンスストア(ローソン、セブン-イレブン、ファミリーマート、サークルK、サンクスに限ります。) ③ 払込方法 【郵便局の場合】 ア 本学所定の払込用紙(5枚綴りの専用紙)を利用し、各票の「払込人」欄(※印の欄)に、入学志願者(本人に限る。)の住所・氏名(英字・漢字ともに必ずフリガナを付す。)及び電話番号を黒又は青のボールペンで正確に記入してください。また、払込取扱票(振込通知書)には、出願する研究科名も記入してください。 イ 払込用紙に検定料30,000円を添え、窓口にて納めてください。 ウ 「郵便振替払込金受領証」及び「郵便振替払込受付証明書」を受付窓口から受け取る際には、「受付局日附印」が押されていることを確認してください。 エ 払込手数料は、入学志願者本人の負担となります。 【郵便局以外の金融機関の場合】 ア 郵便局以外の金融機関から筑波大学の指定金融機関(三菱東京UFJ銀行又は常陽銀行。払込用紙の裏面を参照)の口座宛に払い込む場合は、本学所定の払込用紙(5枚綴りの専用紙)を利用し、各票の「払込人」欄(※印の欄)に、入学志願者(本人に限る。)の住所・氏名(英字・漢字ともに必ずフリガナを付す。)及び電話番号を黒又は青のボールペンで正確に記入してください。また、払込取扱票(振込通知書)には、出願する研究科名も記入してください。 イ 各票の「振込先」欄に、銀行名(三菱東京UFJ銀行又は常陽銀行。払込用紙の裏面を参照)欄に応じて支店名、口座番号をそれぞれ記入してください。 ウ 払込用紙に検定料30,000円を添え、窓口にて納めてください。 エ 「郵便振替払込金受領証」及び「郵便振替払込受付証明書」を受付窓口から受け取る際には、「受付局日附印」が押されて

			<p>いることを確認してください。</p> <p>オ 払込手数料は、入学志願者本人の負担となります。</p> <p>【コンビニエンスストアの場合】</p> <p>ア PC 又は携帯電話 Web 上の専用ホームページ、店内にある情報端末を利用して払い込みますので、払込用紙は使用しません。</p> <p>イ 実際の操作の手順については、別紙の案内書「コンビニエンスストアでの検定料払込方法」を参照して払い込んでください。</p> <p>ウ 払込手数料は、入学志願者本人の負担となります。</p> <p>④ 「受付局日附印」が押された「郵便振替払込受付証明書」（金融機関払込）又は「検定料収納証明書（収納印不要）」（コンビニ払込）を入学願書の所定欄に貼り付けてください。</p> <p>「受付局日附印」が押された「郵便振替払込受付証明書」又は「検定料収納証明書」が所定欄に貼り付けられていない場合は出願を受理しません。</p>
8	返信用封筒	全員	<p>本学所定の封筒に志願者の住所、氏名を記入し、返信用郵便切手(350円分)を貼って提出してください。(受験票、受験者心得等送付用)</p>
9	卒業（見込）証明書	全員（注）	<p>本学大学院への出願資格を満たす大学の卒業（見込）証明書を提出してください。(通常は学士の学位を取得した大学(学部・学群)。修士又は博士の学位を取得している場合であっても、学士の学位を取得した大学の証明書が必要です。また、外国の大学を卒業した者は学士相当の学位を取得したことを証明する書類(学位取得証明書等)を併せて提出してください。)</p>
10	成績証明書	全員（注）	<p>① 本学大学院への出願資格を満たす大学の成績証明書を提出してください。(通常は学士の学位を取得した大学(学部・学群)。修士又は博士の学位を取得している場合であっても、学士の学位を取得した大学の証明書が必要です。)</p> <p>なお、編入学等により認定されている科目がある場合には、編入学等前の成績証明書も併せて提出してください。</p> <p>② 大学評価・学位授与機構で出願資格を得た者は、学位授与証明書(学位授与申請受理証明書)、成績証明書等学位取得に係る証明書すべてを提出してください。</p> <p>③ 大学院修了者(修了見込みの者を含む。)は、大学院における成績証明書も提出してください。</p>
11	研究計画書	教育学専攻 心理専攻 感性認知脳科学専攻 世界遺産専攻	<p>入学後に研究しようとしている内容及びその計画について、氏名、研究題目及び希望指導教員名を明記し提出してください。(様式任意、A4判2枚以内、縦置き、横書き、図表・引用文献の文字数は含めず2,000字以内)。英語でも可(A4判2枚以内)。</p> <p>入学後に研究しようとしている内容及びその計画について、氏名、研究題目及び希望指導教員名を明記し提出してください。(様式任意、A4判、縦置き、横書き、図表・引用文献の文字数は含めず2,000字以内)。英語でも可(A4判2枚以内)。</p> <p>入学後に研究しようとしている内容及びその計画について、氏名、研究題目及び希望指導教員名を明記し提出してください。(様式任意、A4判、縦置き、横書き、2,000字以内)。英語でも可(A4判2枚以内)。</p>
12	受験承認書 (様式任意)	該当者	<p>本学所定の用紙に所要事項を記入し提出してください。</p> <p>① 現に大学・大学院に在学している者(平成24年(2012年)3月卒業・修了見込みの者を除く。)は、当該大学長(所属長)による受験承認書(様式任意A4判)を提出してください。</p> <p>② 現に官公庁・学校・会社等に在職している者(非常勤、アルバイトを除く。)は、当該所属長による受験承認書(様式任意A4判)を提出してください。[退職して入学する予定の者又は受験承認書の提出が困難な者は、本人がその旨明記した文書(申立書:押印必要)をもって、受験承認書に代えることができます。ただし、退職して入学する予定の者は、入学手続き時に「退職証明書」を提出してください。]</p>
13	外国人出願者調書	外国人出願者全員	<p>本学所定の用紙に所要事項を記入し提出してください。</p>

14	国費留学生証明書 (様式任意)	外国人出願者の該当者	他大学に在籍している国費外国人留学生は、当該大学の発行する国費留学生証明書を提出してください。
15	研究歴証明書	外国人出願者の該当者	外国人出願者のうち、大学教育修了までの学校教育の課程が16年に満たない国において大学教育を修了した者で、大学教育修了後、日本国内若しくは国外の大学又は大学共同利用機関等これに準ずる研究機関において、研究生、研究員等として相当期間(おおむね1年以上とする。)研究に従事しており、22歳に達した者及びその見込みの者は、本学所定の用紙に当該機関の長等の証明を受け、提出してください。 ただし、本学の大学院研究生となっている外国人留学生は、本学所定の研究生証明書をもって研究歴証明書に代えることができます。 本学留学生センターで申請の上、研究生証明書の交付を受け提出してください。
16	受付・連絡受信シール	全 員	本学所定の用紙に所要事項を記入し提出してください。
17	出願書類等提出明細票	全 員	本学所定の用紙に所要事項を記入し提出してください。

(注) 婚姻等により証明書と氏名が異なる場合は、戸籍抄本(写し可)を添付してください。

3. 出 願 方 法

- (1) 入学志願者は、出願書類を取りそろえ、出願書類等提出明細票で確認のうえ**本学所定の封筒**に入れ、下記の出願期間中に受付窓口を持参するか、又は**郵便局で書留・速達**にして教育推進部教育推進課まで郵送(期間中必着)してください。
- (2) 出願書類の受付期間
平成24年(2012年)1月4日(水)～1月6日(金) 9時～15時(昼休み12時～13時)
(持参、郵送とも期間内に必着のこと。期間終了後到着分は受理しません。)
- (3) 受付場所
筑波大学生物・農林学系 A 棟 106 室
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1丁目1番地の1
受付場所周辺地図 URL: http://www.tsukuba.ac.jp/access/map_central.html
- (4) 出願書類を受理したときは、1月13日(金)に「受験票」を発送します。
なお、1月20日(金)までに受験票が到着しないときは、9頁「11. 問い合わせ先」に照会してください。
- (5) 出願に当たっての注意事項
 - ① 提出書類が不足していたり、記載事項に不備がある場合には、出願書類を受理しないことがありますので、提出前によく確認してください。
 - ② 出願後の志望研究科及び専攻等の変更は認めません。
 - ③ 出願書類及び既納の検定料は、返還しません。

(注) 出願に当たり、カリキュラム、研究指導分野等について不明な点がある場合は、9頁「9. 過去の入試問題公開状況」の問い合わせ先まで連絡してください。

4. 選 抜 方 法

提出書類及び学力検査の結果を総合的に判定し、入学候補者を決定します。
ただし、心理専攻は第1次試験(外国語・専門科目)を行い、その合格者に対し、第2次試験(口述試験)を行います。

5. 学力検査及び日程等

次頁からの日程のとおり実施します。
試験科目は、試験時選択科目以外は事前に選択するものとします。

<博士前期課程>

専攻	月日	2月1日(水)		2月2日(木)
	科目	外国語(100点)	専門科目(100点)	口述試験(200点)
	時間	10:00~11:00	12:30~13:30	10:00~17:00
教育学	英語(日本人受験生) 日本語(外国人留学生受験生) (英語・日本語ともに、辞書の使用は不可)	教育学に関する小論文		出願時に提出した研究計画書をもとに行う。 試験は個別に実施する (注1参照)

(注) 1. 研究計画書(2,000字以内、A4判2枚以内。英語でも可(A4判2枚以内。))には、①タイトル、志望する専門研究分野、志望する指導教員、②研究目的、③研究内容、④研究方法及び計画(2カ年)、⑤研究の特色及び意義、の各項目について記述すること。口述試験はすべて日本語で実施し、各自5分間の発表後、質疑応答を行います。

2. 本専攻の詳細については、Webページ：http://www.human.tsukuba.ac.jp/dpeduc/human_e/を参照してください。また、出願にあたって志願者は、志願する専門研究分野の教員と事前に連絡を取ってください。

専攻	月日	2月1日(水)		2月2日(木)	
	科目	外国語(200点)	専門科目(200点)	第1次試験合格発表	口述試験(200点)
	時間	10:00~12:00	13:00~15:00	9:00	10:00~17:00
心理	英語 (英語の文章読解力、表現力をみる。辞書の使用は不可。)	心理学 (心理学基礎知識：心理学全般の基礎知識をみる。)			出願時に提出した研究計画書をもとに行う。 試験は個別に実施する。

(注) 1. 出願にあたって志願者は、志望する指導教員と事前に連絡をとってください。

2. 第1次試験合格者は、当日の9:50に出席の確認を行いますので、その時刻に口述試験控室に必ず集合してください。出席を確認できない場合、第2次試験(口述試験)を受けられないことがあります。

3. 口述試験の際に、自分用に研究計画書のコピーを見ながら受験することはできません。

専攻	月日	2月1日(水)		2月2日(木)	
	科目(配点)	外国語(100点)	専門科目(100点)		口述試験(100点)
専攻	時間	10:00~11:30	13:30~15:00		10:00~17:00
感性認知脳科学	英 語	感性科学領域	感性情報学		個別面接 専門分野及び研究計画について試問する。
		行動科学領域	行動神経内分泌学, 比較心理学, 行動神経科学, 精神機能障害学の中から一科目を出願時に選択する。		
		神経科学領域	神経科学		

- (注) 1. 出願にあたって、志願者は、志望研究領域について志望指導教員と事前に連絡をとってください。
(連携大学院方式の志願者は、本学の関連する分野の指導教員とも併せて連絡をとってください。)
2. 本専攻に関する Web ページ : <http://www.kansei.tsukuba.ac.jp>
3. 横線を引いてある専門科目については、募集はありません。(研究分野一覧参照)

専攻	月日	2月2日(木)		2月3日(金)	
	科目(配点)	外国語(100点)	専門科目(300点)		口述試験(200点)
専攻	時間	10:00 ~ 11:30	13:00 ~ 15:30		10:00 ~ 17:00
世界遺産	英 語 (辞書の使用を認める。ただし、辞書機能等をもつ電子機器は不可)	論 述 (志望分野に関する問題)		出願時に提出された研究計画書等に基づいて試問する。 試験は個別に実施する。	

6. 学力検査等の試験場

筑波大学(茨城県つくば市天王台1丁目1番地の1)

[詳細については、9頁「10. 受験についての注意事項等」の「受験者心得」をご覧ください。]

7. 合格者の発表

平成24年(2012年)2月16日(木)10時

筑波大学本部棟前駐車場に掲示するとともに、合格者には、合格通知書等を同日「書留」にて発送します。

8. 入学手続

(1) 合格者には、入学手続の日時、場所、提出書類を記載、添付した「入学手続案内」を合格通知書に同封しますので、これに従って入学手続をとってください。

なお、その際有職者(非常勤、アルバイトを除く。)については、任命権者が発行する書類(研修命令書、休職証明書、就学承認書等のいずれか。)を併せて提出してください。

(2) 入学時に必要な経費

① 入 学 料 282,000円(入学手続の際納付した入学料は、返還いたしません。)

② 授 業 料 第1期分(4月~9月分)267,900円(年額535,800円)

(注)1. 入学時及び在学中に、学生納付金の改定が行われた場合は、改定時から新たな納付金額が適用されます。

(注)2. 入学料については、国費外国人留学生は不要です。

(3) 外国籍の者は、入学手続時まで「出入国管理及び難民認定法」(昭和26年政令第319号)に基づき、大学院入学に支障のない在留資格を得てください。

なお、本学に外国人留学生として入学を希望する者は必ず「留学」の在留資格を得てください。

9. 過去の入試問題公開状況

研究科・専攻	閲覧	コピー	郵送	問い合わせ先	電話 (直通)	
人間総合科学				人間総合科学研究科事務室	029(853)2991	
専攻	教育学	○	○	×	教育学系事務室	029(853)4598
	心理	○(注2)	○(注2)	×	心理学系事務室	029(853)4597
	感性認知脳科学	○	○	×	総合研究棟D事務室	029(853)2999
	世界遺産	○	○	×	体育芸術系支援室大学院教務	029(853)2997

- (注) 1. 過去の入試問題の閲覧又はコピーを希望する者は、事前に各専攻の問い合わせ先に連絡してください。
 2. 博士前期課程心理専攻の過去の入試問題については、専門科目は閲覧・コピーは可としますが、外国語の問題は著作権の関係上、コピー及び閲覧は不可とします。

10. 受験についての注意事項等

受験についての注意事項が記された「受験者心得」を一読し、その指示に従って受験してください。
 受験者心得は、本学ホームページ (<http://www.tsukuba.ac.jp/admission/graduate/index.html>) に平成24年(2012年)1月16日(月)に掲載します。

11. 問い合わせ先

学生募集に関し、不明な点等がある場合には、次まで照会してください。

〒305-8577	茨城県つくば市天王台1丁目1番地の1 筑波大学教育推進部教育推進課大学院入試 電話 029(853)2230・2231 取扱日及び時間：月～金曜日の9時～17時 〔ただし、休日(国民の祝日、振替休日)を除く。〕
-----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

大学院博士課程研究科の概要

1. 人間総合科学研究科案内

(<http://www.chs.tsukuba.ac.jp>)

これからの人間社会は、難病、複雑な社会システムに起因するストレス、多様な価値観に対応する教育、障害者福祉、高齢化社会における健康・医療・福祉、心身の健康の保持、生活の質（QOL）の向上、文化の創造と保存など、人間自身について解決すべき問題をますます抱えることになるでしょう。そしてその兆候は、近年ますます明確になってきました。このことは、これらの問題に対する有効な対処法を探るために、「人間」に関する高度な基礎的・応用的研究を推進する研究者、及び「人間」の諸問題に対して最善の対処法を身につけた実践家（高度専門職業人）を養成する必要があることを意味します。そのためには、これからの「人間」に関する学問は、「人間」の生物身体的、教育福祉的、精神文化的な3側面を同等に重視しながら、これらを統合し異なる学問領域が連携する総合科学を目指すことが極めて重要になります。

本研究科は、このような社会的要請に応えるために開設されたものであり、人間系（教育学、心理学、障害科学、発達科学）、体育・芸術系（体育科学、芸術学、世界遺産学）、医学系（基礎医学、臨床医学、社会医学、看護科学）及び学際系の諸学問領域が連携し、共通の研究対象である「人間」をキーワードとして、幅広く「人間」を研究する研究科です。本研究科では、平成20年4月より従来の5年一貫制から区分制（前期・後期）へと全面移行しました。新しい専攻は、下記のとおりです。修士課程を含めて区分制前期課程は、柔軟な組織編制となり、幅広い視野と総合的・学際的な知識・技能や高度な専門性を養う課程であり、後期課程・3年制博士課程及び医学課程は、体系的・集中的な教育課程を編成し、自立的・創造的な研究能力を身につけた研究者や高度専門職業人を育成する課程です。このような再編の最大の利点は、前期課程等で学んだ者が関連する多くの後期課程等に進学する機会が開かれていることです。また、学外者についても修士号を取得している者は後期課程等を選択し受験することができます。

- 人間系-9専攻：教育学（前期）、教育基礎学（後期）、学校教育学（後期）、心理（前期）、心理学（後期）、障害科学（前期・後期）、生涯発達（前期：東京地区）、生涯発達科学（後期：東京地区）
- 体育・芸術系-8専攻：スポーツ健康システム・マネジメント（修士課程：東京地区）、体育学（前期）、体育科学（後期）、コーチング学（3年制博士）、芸術（前期・後期）、世界遺産（前期）、世界文化遺産学（後期）
- 医学系-5専攻：フロンティア医科学（修士課程）、生命システム医学（医学課程）、疾患制御医学（医学課程）、看護科学（前期・後期）
- 学際系-4専攻：ヒューマン・ケア科学（3年制博士）、感性認知脳科学（前期・後期）、スポーツ医学（3年制博士）

本研究科では、上記の26専攻が相互に連携しながら、「人間」に関する基礎から応用までの高度な教育研究を推進することにより、それぞれの固有の学問領域においてさらに高度な研究を計画実行できる研究者、及び「人間」に関して幅広い知識をもち優れた学際研究を計画実行できる研究者、さらには複合的な視点から「人間」を捉え、さまざまな生き方をしている「人間」に対して柔軟かつ適切な支援を企画実行できる高度専門職業人を養成します。

各専攻の概要

○教育学専攻

教育学専攻は、教育学の幅広い高度な知識と技能を修得するとともに、教育学の理論と実践とを統合した新しいカリキュラムと教授法の下で、教育の本質と現実的課題を問い続ける研究姿勢と基本的な研究方法、時代の要請に応える実践力を身につけた教育学研究者の育成を目指しています。本専攻は、教育学の基礎的な学問分野によって構成される教育基礎学領域、応用的な学問分野によって構成される学校教育学領域、そして学際的な学問分野によって構成される共生教育学領域の3つの領域から成っています。専門研究分野には、教育哲学、日本教育史、外国教育史、生涯学習・社会教育学、教育制度学、比較・国際教育学、教育行政学、学校経営学、カリキュラム、教育方法学、教育工学、道徳教育学、社会科教育学、人文科教育学、数学教育学、理科教育学、教育社会学、教育臨床学、教育経営学があります。

○心理専攻

本専攻では、基礎から応用まで、また心理学の多彩な分野についての高度な教育・研究指導を行うことで、心理学の基礎研究の成果および方法論を社会に還元できるような、有為な人材を養成します。具体的には、臨床心理士、感性工学・人間工学に関わる専門家、社会調査及び市場調査など社会心理状況を分析する専門家、人事管理・人事評価に関わる専門家、高度な専門性を持った公務員の育成を目指します。本専攻は、心理基礎コースと心理臨床コースの2コースから成ります。また、「生涯発達専攻」「感性認知脳科学専攻」とも密接に連携しています。

- ・心理基礎コース：「知覚・認知心理学分野」「教育・発達心理学分野」「社会心理学分野」の3分野を含み、心理学的方法論をツールとして使いこなし、問題発見から解決への道筋を見いだす、幅広い視野と技能を有した高度職業人・研究者としての能力を育みます。
 - ・心理臨床コース：心理学の最新の研究成果に精通した研究者であると同時に、現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる「科学者－臨床家（scientist-practitioner）」としての能力を育みます。
- 本コースは財団法人日本臨床心理士資格認定協会から第1種指定校に認定されています。

○感性認知脳科学専攻

本専攻は感性科学、認知・行動科学、脳科学を架橋し、学際的視点に立って、人間のこころに関連した融合的な研究課題を多角的に解析できる研究者と教育者、さらにデザインや研究開発企画などの多方面の知識と専門技術を社会で応用できる実践力を持ち、それぞれの組織で指導的牽引力となって複合的問題を解決できる高度専門職業人を養成します。緩やかな専門領域制と、多様化した大学院教育へのニーズに対して、分野横断型の基礎科目と実践的な研究推進を学ぶ実習・演習を通じて、研究者養成と高度専門職業人養成を可能にしています。分野横断型基礎科目では学際的視点を培うための学術的技術基盤を修得し、感性科学、行動科学、および神経科学からなる緩やかな3領域においてそれぞれ開設される基礎的専門科目、学生主体の横断型研究企画推進演習、英語コミュニケーション力養成演習などの履修により、分野融合的視点に立ちながら、修了後の進路設計に適合した専門的知識と技能を修得できる教育プログラムを提供しています。また、中央大学大学院理工学研究科（感性ロボティクス副専攻）との教育研究連携協定の締結により、本専攻の教育に情報・福祉・支援工学の領域をも組み入れ、人間科学と情報工学を架橋する分野横断的な思考力と対応力をもつ人材育成を推進します。

○世界遺産専攻

① 世界遺産専攻の設立の趣旨・目的

文化遺産の保護は、平和と紛争、民族や宗教、環境問題など、さまざまな地球規模の課題とも密接に関連したきわめて重要な専門分野として認識されるようになってきました。

世界遺産専攻は、ユネスコによる国際条約にもとづく世界遺産をはじめ国内外の文化遺産に関わる多角的な研究を行うとともに、これらの保護のために必要な専門知識と高度な技術を有し国際的に活躍できる人材の育成を目的としています。

② カリキュラムの特色・構成

世界遺産専攻では、文化庁をはじめ国内外の関連機関及び学内の他研究科と連携し、幅広い専門知識を身につけるとともに、遺産保護の実践的能力を習得できるようにカリキュラムが構成されています。

必修科目で世界遺産制度、遺産保存の意義、保存への考え方、共同研究の実施をとおして、遺産保護研究の基礎について学習します。その後、選択科目の中からそれぞれの専門研究に即した授業を履修します。選択科目は、文化財学の思想や遺産保護制度、自然保護や美術、考古、建築、景観保存、保存科学による分析・評価に関わる基本的講義科目から、遺産保護の国際協力や遺産マネジメント、観光や市民参加など社会的役割・活用に関わる講義で構成され、さらに保存現場やフィールド活動を中心に演習科目で実践的能力を養成します。また遺産保護や活用の現場で研修を行うインターンも実施しており、高度職業人として活躍する専門能力の修得に重点をおいています。

○専攻必修科目

世界遺産論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、世界遺産特別研究

○専攻選択科目

Heritage Theory and Policy StudiesⅠ、Heritage Theory and Policy StudiesⅡ、文化財学の思想と体系Ⅰ、文化財学の思想と体系Ⅱ、自然保護論、自然保護演習、自然遺産論Ⅰ、自然遺産論Ⅱ、宗教論、建築の評価と保存、建築の評価と保存演習、都市遺産論、文化的景観論、文化的景観演習、美術遺産論Ⅰ、美術遺産論Ⅱ、美術遺産演習、考古遺産論、文化財保存科学概論、保存科学演習Ⅰ、保存科学演習Ⅱ、保存修復材料技術論、遺産マネジメント、遺産マネジメント演習、文化観光論、文化観光論演習、市民参加論、世界遺産学外研修、世界遺産学外演習、無形遺産論、日本の文化遺産保護の歴史と理念、遺産保護行政論、世界遺産と国際協力

③ 履修方法

専攻必修科目の9単位、各専門科目から21単位以上の履修が必要です。

④ 課程修了の要件・学位

上記の履修方法によって合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出してその審査及び最終試験に合格することが必要です。合格した者には、修士（世界遺産学）または修士（学術）の学位が授与されます。

⑤ 修了後の進路

本専攻を修了した者は、およそ次のような進路が考えられます。

a 文化財関係研究機関

文化財研究所研究員、保存修復関連の財団職員、博物館学芸員

b 企業等

観光関連の研究所、観光関連のコンサルタント、文化財関連のコンサルタント、国際協力事業関連のコンサルタント、新聞社、保存関連のNPO法人

c 行政

文化財保護関連の行政機関職員（国及び地方自治体）

d その他

国際機関職員

2. 連携大学院方式

近年の科学技術の急速な発展と高度化に伴い、研究分野の細分化、専門化が進む一方、従来の学問体系を越えて新しい境界領域が開拓され、学際的な研究が推進されるようになりました。

特に、基礎から応用分野に係る広い範囲の知識を必要とする学際研究では、専門分野を異にする研究者間の協力による総合的な研究が重要となっており、また、これに対応する、時代に即した新しい型の研究者育成が強く求められています。

本方式は、これらの学問的、社会的要請に応えるため、筑波研究学園都市等にある多数の国立・独立行政法人・民間企業等の研究機関と連携を図り、その研究者を本学の教授又は准教授に任用し、最新の研究設備と機能を有する研究所において学生の研究指導を行い、教育・研究領域を多様化して大学院教育を活性化するとともに、これらの研究機関との交流を深めて新たな研究領域を確立することを目的としています。

筑波大学大学院博士課程研究科教員研究分野一覧

人間総合科学研究科
 <教育学専攻>

教育基礎学領域（[]は専門研究分野）	
教 員 名	研 究 内 容
米 澤 茂	[教育哲学] 西洋教育哲学研究
*新 井 保 幸	[教育哲学] 教育思想史、ドイツの教育哲学、教育のメタ理論、教師教育の哲学的研究
*平 田 諭 治	[日本教育史] 近現代日本の教育とナショナリズム／オリエンタリズム／コロニアリズム
安 川 哲 夫	[外国教育史] 西洋教育思想史研究、教育図像の歴史研究
手 打 明 敏	[生涯学習・社会教育学] 近代日本社会教育史、公民館の国際比較研究
*上 田 孝 典	[生涯学習・社会教育学] 現代アジアの社会教育・生涯学習比較研究、近代中国教育史
清 水 一 彦	[教育制度学] 教育制度研究、高等教育の研究
*荒 川 麻 里	[教育制度学] 教育制度研究、家庭教育、ドイツの教育
佐 藤 眞理子	[比較・国際教育学] 途上国地域の比較教育、国際教育開発援助
嶺 井 明 子	[比較・国際教育学] グローバル化と国民教育制度の再編、旧ソ連圏の教育、国際理解教育
窪 田 眞 二	[教育行政学] 学校評価の研究、イギリス教育改革の研究、父母の教育権研究、規制改革の研究
浜 田 博 文	[学校経営学] 学校経営の日米比較研究、校長職の研究、教師教育の研究、学校改善の研究、アメリカ学校経営の研究
*佐 藤 博 志	[学校経営学] オーストラリアの学校経営の研究、イギリスの学校経営の研究、学校変革の理論と実践の研究
学校教育学領域（[]は専門研究分野）	
田 中 統 治	[カリキュラム] カリキュラムの社会学的研究、カリキュラム開発理論、カリキュラム・マネジメント、学校社会学研究
*根 津 朋 実	[カリキュラム] カリキュラム評価、カリキュラム開発、教科外活動の研究、評価論
*樋 口 直 宏	[教育方法学] 学習指導論、授業分析、教育方法の実践的研究、批判的思考教授論の研究、小中一貫教育
※吉 江 森 男	[教育工学] 学校教育におけるメディア利用、遠隔教育、情報教育、物理教育
吉 田 武 男	[道徳教育学] 道徳教育論、シュタイナーの教育論、教科外教育及び課外教育の研究

*田 中 マリア	[道徳教育学] 道徳教育論、ルソーの教育思想
江 口 勇 治	[社会科教育学] 公民教育、法教育
井 田 仁 康	[社会科教育学] ニュージーランドをはじめ各国の社会科・地理教育と我が国の社会科・地理教育との比較研究、地理学習における教材開発に関する研究
*唐 木 清 志	[社会科教育学] 公民教育、アメリカ社会科の研究、サービス・ラーニング
*國 分 麻 里	[社会科教育学] 歴史教育論、近現代日韓関係史教育、近代朝鮮の歴史教育史
塚 田 泰 彦	[人文学科教育学] 言語教育論、読みの教育理論の研究、母語教育思想研究、言語表現カリキュラム研究
甲 斐 雄一郎	[人文学科教育学] 国語教育史、国語単元学習論
清 水 美 憲	[数学教育学] 数学的思考の認知的研究、数学教育の国際比較、数学教育評価論
磯 田 正 美	[数学教育学] 数学的活動、数学史・テクノロジー利用、算数・数学の学習指導と評価、国際協力
*蒔 苗 直 道	[数学教育学] 数学教育史
大 高 泉	[理科教育学] 理科教育基礎論、ドイツ及び日本科学教育思想、理科教授学習論、環境教育論
*片 平 克 弘	[理科教育学] 理科教授学習論、理科教育評価論、化学教育論
共生教育学領域 ([]は専門研究分野)	
飯 田 浩 之	[教育社会学] 青少年、社会化、地域・子育て支援、高校教育、教育改革
岡 本 智 周	[教育社会学] 共生を促す教育的知識の探索と開発、学校の社会的機能、日米の教育とナショナルリズム、共生社会学研究
庄 司 一 子	[教育臨床学] 教育臨床、発達臨床、学校不適応、児童・生徒の対人関係、スクールメンタルヘルス、親教育
水 本 徳 明	[教育経営学] 学校組織・経営、学校改善、授業改善、学校への支援・コンサルテーション

*印の教員は、指導教員に指名できないが、研究内容について助言を得られる。

※平成23年度末をもって退職予定であるため、指導教員には指名できない。

<心理専攻>

コース	研究分野	教員名	研究内容
心理基礎コース	知覚・認知心理学分野	茂呂雄二	言語発達、教室の相互行為、読み書き
		原田悦子	認知心理学、認知的高齢化の心理学、「使いやすさ」の心理学
		綾部早穂	感覚・知覚心理学、認知心理学、嗅覚心理学
	教育・発達心理学分野	櫻井茂男	動機づけ、無気力、自己意識、完全主義
		服部環	テスト理論、認知能力検査、教育測定学、教育心理学
		佐藤有耕	思春期、青年期、友人関係、自己嫌悪感
		外山美樹	自己認知、動機づけ
	社会心理学分野	松井豊	対人行動、援助、恋愛、悲嘆過程、惨事ストレス
		湯川進太郎	臨床社会心理学、感情心理学、攻撃、怒り、健康、犯罪、スポーツ
心理臨床コース	発達臨床心理学	濱口佳和	発達臨床、攻撃性、主張性、社会的情報処理、攻撃置換訓練 養育行動、ペアレント・トレーニング
		佐藤純	発達臨床心理学、学生相談、学習支援、学習方略の発達 認知療法、育児支援
	臨床心理学	杉江征	自律訓練法の基礎的臨床研究、大学生と学生相談、教育臨床と 心理臨床の実践的研究
		青木佐奈枝	医療現場の心理支援、心理査定 の臨床活用、解離と心的外傷の ロールシャッハ研究
		望月聡	臨床神経心理学、認知神経心理学、 認知-行動-感情病理の個人 内要因・機序に関する研究

(注) 出願にあたって志願者は、志望する指導教員と必ず事前に連絡をとってください。

<感性認知脳科学専攻>

研究領域	教員名 (専門)	研究内容
感性科学	山中敏正 (感性情報学)	<ul style="list-style-type: none"> ・創造的活動における感性情報構造モデルの研究 ・感性情報と認知情報の統合によるデザイン方法論 ・生理・心理・行動を介した感性情報の評価モデルの研究 ・感性的問題解決能力のあるデザイナーの育成
	李昇姫 (感性デザイン学)	<ul style="list-style-type: none"> ・造形イメージによる感性の働きの解明とデザイン創造性支援 ・生体・行動情報による感性評価モデルの構築と応用 ・触覚・身体動きを用いたタンジブルインタラクションの研究 ・パーソナリティなど感性的特徴に基づく人間中心デザイン開発
	五十嵐浩也 (感性デザイン学)	<ul style="list-style-type: none"> ・感性情報の機構（メカニズム）の研究 ・感性情報を用いた新たな人工物デザインの研究
行動科学	小川園子 (行動神経内分泌学)	<ul style="list-style-type: none"> ・情動・社会行動の神経内分泌学的基礎に関する研究 ・行動の性分化とその脳内メカニズム ・海馬の機能についての行動神経科学的解析研究
	加藤克紀 (比較心理学)	<ul style="list-style-type: none"> ・情動や社会性の発達に社会的環境が及ぼす影響に関する生物行動学的研究 ・新奇性と慣れに関する行動遺伝学的研究
	一谷幸男 (行動神経科学)	<ul style="list-style-type: none"> ・動物を用いた学習・記憶の脳内メカニズムに関する行動神経科学的研究 ・精神疾患の動物モデルに関する行動薬理学的研究
	山田一夫 (行動神経科学)	<ul style="list-style-type: none"> ・動物を用いた学習・記憶の消去や忘却の脳内メカニズムに関する行動神経科学的研究 ・心的外傷後ストレス障害（PTSD）および薬物依存の動物モデルに関する行動神経科学的研究
	宮本信也 (精神機能障害学)	<ul style="list-style-type: none"> ・小児期における精神障害の脳機能に関する研究 ・高機能広汎性発達障害の認知特性に応じた対応に関する研究 ・愛着障害（児童虐待）の発生・予防・対応に関する研究
	宇野彰 (精神機能障害学)	<ul style="list-style-type: none"> ・特異的障害児の脳機能に関する研究 ・後天性脳損傷による高次脳機能障害に関する研究 ・発達性 dyslexia、特異的言語障害（SLI）の障害メカニズムと訓練方法の開発および効果に関する研究
	堀孝文 (精神機能障害学)	<ul style="list-style-type: none"> ・自閉症スペクトラム障害の実行機能に関する神経基盤の研究 ・初期統合失調症の精神病理学的研究
神経科学	設楽宗孝 (システム脳科学)	<ul style="list-style-type: none"> ・報酬・動機づけ・目標指向行動の脳内情報処理機構の研究 ・視覚認識の脳内情報処理機構の研究 ・情動と向社会性の神経基盤を解明する動物モデルの開発
	久野節二 (システム脳科学)	<ul style="list-style-type: none"> ・情動とホルモン分泌制御機構の分子発生的研究 ・脳内グルタミン酸輸送体の発現と機能の解析
	野上晴雄 (システム脳科学)	<ul style="list-style-type: none"> ・脳内成長ホルモン・プロラクチン系 ・視床下部・下垂体系の胎生期機能発達のメカニズム

	岩本 義輝 (システム脳科学)	<ul style="list-style-type: none"> ・随意運動学習の神経機構の研究 ・眼球運動制御機構の神経生理学的研究 ・錯視における知覚と運動の相互作用
	志賀 隆 (神経分子機能学)	<ul style="list-style-type: none"> ・神経回路形成機構の研究 ・モノアミンによるシナプスの形成維持機構の解析の研究 ・環境要因が脳の発達と行動に及ぼす影響の研究

【連携大学院方式】

研究領域	教員名 (専門)	研究内容
神経科学	佐藤 主税 (脳型情報処理機構学) [独立行政法人 産業技術総合研究所]	<ul style="list-style-type: none"> ・神経系のイオンチャンネルタンパク質の構造解明 ・神経系での情報処理に関するリセプター膜タンパク質の構造解明
	高島 一郎 (脳型情報処理機構学) [独立行政法人 産業技術総合研究所]	<ul style="list-style-type: none"> ・大脳皮質神経回路の機能構造解析 ・脳機能回復メカニズムに関する研究

<世界遺産専攻>

研究領域	専任教員	
	氏名	主担当授業名
文化遺産原論	金田千秋※	文化財学 of 思想と体系
自然保護論	吉田正人	自然保護論
文化遺産保護論	稲葉信子	Heritage Theory and Policy Studies
文化観光論	羽生冬佳	文化観光論
遺産整備計画論	上北恭史	遺産マネジメント
文化的景観論	黒田乃生	文化的景観論
文化遺産建築論	日高健一郎	建築の評価と保存
文化遺産美術論	八木春生	美術遺産論
保存修復科学論	松井敏也	文化財保存科学概論

※の教員は平成24年3月退職予定です。

入学願書等記入上の注意

1. 入学願書に記入した氏名、生年月日、性別は、基本データになりますので正確に記入してください。
2. ※欄は記入しないでください。
3. 本籍（国籍）欄は、日本国籍を持つ者は都道府県名を記入し、外国籍を持つ者は国名を記入してください。
本籍コード、研究科・専攻コードは、次の該当するコードを記入して下さい。

〔本籍コード〕

北海道 →01	埼玉県 →11	岐阜県 →21	鳥取県 →31	佐賀県 →41
青森県 →02	千葉県 →12	静岡県 →22	島根県 →32	長崎県 →42
岩手県 →03	東京都 →13	愛知県 →23	岡山県 →33	熊本県 →43
宮城県 →04	神奈川県→14	三重県 →24	広島県 →34	大分県 →44
秋田県 →05	新潟県 →15	滋賀県 →25	山口県 →35	宮崎県 →45
山形県 →06	富山県 →16	京都府 →26	徳島県 →36	鹿児島県→46
福島県 →07	石川県 →17	大阪府 →27	香川県 →37	沖縄県 →47
茨城県 →08	福井県 →18	兵庫県 →28	愛媛県 →38	
栃木県 →09	山梨県 →19	奈良県 →29	高知県 →39	
群馬県 →10	長野県 →20	和歌山県→30	福岡県 →40	

〔研究科・専攻コード〕

研 究 科 名	コ ー ド	専 攻 名	コ ー ド
人間総合科学 (博士前期)	8才	教 育 学	1
		心 理 学	2
	8カ	感性認知脳科学	1
	8キ	世界遺産	C

4. 改姓年月及び旧姓欄は、婚姻等により出願書類（成績証明書など）と氏名が異なる場合に記入してください。
また、これを証明する戸籍抄本（写可）を添付してください。
5. 本人以外の連絡先欄は、**日本国内に在住**している本人と連絡のとれる者を記入してください。
また、国費外国人留学生は、「**文部科学省**」以外の氏名を記入してください。
6. **志望研究科・専攻名は、募集要項（2頁）で明記している専攻名**を記入してください。
7. 志望研究分野は、志願者全員が「教員研究分野一覧」に記載されている「研究分野」名を明記してください。ただし、専攻によっては記入方法が異なるので記入例を参照してください。
8. 受験科目欄は、専攻で実施される科目をそれぞれの該当する欄に記入してください。（記入例参照）
試験科目は、試験時選択科目以外は事前に選択するものとします。
9. 受験特別措置欄は、障害のある者で、受験の際に特別な配慮を許可された者は「要」に○を付してください。
それ以外の者は「不要」に○を付してください。
10. 出願資格審査欄は、募集要項に明記している出願資格認定審査に提出する者が「要」に○を付してください。
それ以外の者は「不要」に○を付してください。
11. 出願資格欄は、該当する出願資格に応じて卒業した学校名等を記入してください。
12. 入学願書提出後、連絡先が変更になった場合には、直ちに申し出てください。

<各専攻別記入例>

◎教育学専攻志願者記入例

「志望研究分野又は志望指導教員」欄には、志望研究分野及び教員名を記入してください。

志望研究科名・研究科コード		志望専攻名・専攻コード		志望研究分野又は志望指導教員	
人間総合科学研究科	8 才	教育学 専攻	1	教育行政学 (窪田 眞二)	
受験科目	外国語等	専門科目		関連科目	基礎科目
	1 英語				
	2 日本語 ※				

※ 外国人留学生のみ記入してください。

◎心理専攻志願者記入例

「志望研究分野又は志望指導教員」欄には、コース及び志望指導教員名を記入してください。

志望研究科名・研究科コード		志望専攻名・専攻コード		志望研究分野又は志望指導教員	
人間総合科学研究科	8 才	心理 専攻	2	心理基礎コース (吉田 富二雄)	
受験科目	外国語等	専門科目		関連科目	基礎科目
	1 英語				
	2				

◎感性認知脳科学専攻志願者記入例

「志望研究分野又は志望指導教員」欄には、志望専門分野及び志望指導教員名を記入してください。(16～17頁参照)
 「専門科目」欄には、志望研究領域に沿って、感性情報学、行動神経内分泌学、比較心理学、精神機能障害学、神経科学の中から一科目を選んで記入してください。(8頁参照)

志望研究科名・研究科コード		志望専攻名・専攻コード		志望研究分野又は志望指導教員	
人間総合科学研究科	8カ	感性認知脳科学専攻	1	システム脳科学(久野 節二)	
受験科目	外国語等	専門科目		関連科目	基礎科目
	1 英語	神経科学			
	2				

◎世界遺産専攻志願者記入例

「志望研究分野又は志望指導教員」欄には、各自の志望する研究課題を記入してください。

志望研究科名・研究科コード		志望専攻名・専攻コード		志望研究分野又は志望指導教員	
人間総合科学研究科	8キ	世界遺産 専攻	C	文化遺産の危機管理	
受験科目	外国語等	専門科目		関連科目	基礎科目
	1 英語	論述			
	2				